



(京都西南部・京都東南部)

調査地は左京六条一坊八町の一角にあたる。付近一帯には広範囲にわたって近世の土採跡が確認されている。この地域も同様に上部がかなり削平されており、ほとんどの遺構は失われていたが、平安時代後期から鎌倉時代の井戸跡を一基検出した。木簡(物忌札)はそのうちの一基の井戸SE〇三から出土した。SE〇三は一辺約〇・九mの方形縦板組みで、底部には径〇

京都・平安京左京六条一坊八町

- 1 所在地 京都市下京区中堂寺命婦町
- 2 調査期間 一九八三年(昭58)四月～六月
- 3 発掘機関 勅京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 梅川光隆・辻 純一・平尾政幸
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 平安時代後期～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

・四五mの曲物が据えられていた。井戸内からは木簡とともに土師器、瓦器、白磁等が出土しており、土器類の型式からこの井戸は一世紀後半代のものと考えられている。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「固物忌」

・「固物忌」

(171)×30×3 051

木簡は下端部を欠くが、保存状態は良好である。材質は檜と思われる。

9 関係文献

勅京都市埋蔵文化財研究所『昭和五七年度京都市埋蔵文化財調査概要』(一九八四年)

奈良国立文化財研究所『木器集成図録 近畿古代編』(一九八五年)

(平尾政幸)

